



11/12(土) 日中学院校友会主催
留学生と行くバスハイク

A先生の新語コーナー



wǎngyuechē “网约车”

ネット配車サービス。ネットワーク車サービスとも言う。中国政府は7月下旬、タクシー業界の改革及びネット配車サービスに関する新しい規定を発表し、このサービスに合法的な地位を与えることを明確にした。今後、自家用車のドライバーは一定の条件を満たせば配車サービスに従事することができる。この新規には配車サービスアプリの規制緩和、営業許可手続きの簡素化、ドライバー参入許可の厳格化等が盛り込まれている。

(A)

2016年日中学院文化祭

2016年10月29日(土)



例年行われている、日中学院文化祭が行われました。心配された天気も良く、多くの方にお越し頂きました。



本年度文化祭実行委員 活動を終えての所感

本科2年 板倉 徹 模擬店展示統括リーダー

私は模擬店・展示チームのリーダーを務めました。模擬店・展示チームは各団体が開く模擬店、及び教室を使用する展示団体の全体統括を行います。

文化祭前は主に、各団体からあがってきた企画書の統括、調理室の利用順序の決定、模擬店の場所や当日の設営箇所の決定を行いました。文化祭中は予想以上の混雑ぶりが見られたため、各模擬店前に養生テープで臨時の行列用導線を設置する等、楽しみながらもドタバタとしていました。各チームともしっかりと準備をした結果、大きなトラブルもなく文化祭を終えることができました。

本科2年 三浦 雪 舞台統括リーダー

舞台統括のリーダーとして、演目プログラム構成の検討・司会原稿の作成・舞台設営・当日の舞台運営を担当しました。

今年は委員会の発足が遅く、短時間で多くの資料作成や、各演者の方々と出演順・リハーサル時間の調整等で何度も連絡を取り希望に沿うように構成するなど、なかなかハードな仕事でした。苦労話が多いですが、作成した資料のおかげで当日の舞台運営は無事計画通り進行し、苦労も報われ、達成感を得ることができました。

来年の実行委員の皆様に向けてアドバイス。日本語科メンバーとコミュニケーション不足で役割分担が曖昧なところがあり、それが今回の反省点です。もっと積極的に中国語を使って運営すれば、より良い連携が取れると思います。

本科2年 中島 彬 広報リーダー

広報のおもな仕事は、ポスターの作成、配布プログラムの作成、外部への宣伝などです。ポスター作成では、毎年たくさんの方に描いて頂いているので、色々なデザインのものが見れておもしろかったです。外部へは、中国関連の本が豊富な書店に直接出向いてポスターを貼らせてもらったり、卒業生等関係者へご案内葉書を送りました。

このような仕事を受け持つのは初めてのことでした。今まで知らなかった自分の改善・反省しなければならぬところに気づかされて、実に貴重な経験だったと思います。

本科2年 山根 春香 全体機材・設営リーダー

私は2年次編入生なので、今回が初めての文化祭でした。分からないことが多く、大変でしたが、とてもやりがいがありました。私が担当した全体機材は、出し物などに必要な道具や機械を準備するお仕事です。リクエストされたものを揃えるだけでなく、これも必要なんじゃないかな?と一緒に考えるところから始まるときもあります。こんなふうに出演したい、という相談で話が盛り上がり、時には一緒に悩んだり、いろいろな同学や先生と話し合う機会がたくさんあるので、あまり話したことのない人とも学年を越えて仲良くなることができました。文化祭委員を任せてもらえて、良かったです!



日本語科



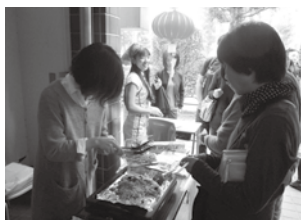
本科1年



本科2年



本科研究科



焼きそば



ワンタン



二胡



有志太極拳



中国結び



書道



ピースリーディング



日中学院創立65周年記念

温又柔さん講演会「私が中国語と仲良くなるまで」

今年、日本エッセイストクラブ賞を受賞され、現在作家としてご活躍中の温又柔さんをお迎えしての講演会です。

台湾で生まれ日本で育ち、中国語を話す両親のもと、中国語を身近に感じていた子供時代。大学で学んだ中国語“普通話”と両親の母国語“國語”との違いに驚き、戸惑い、悩んだ後、日中学院の別科や本科研究科で学ぶ中、様々な出会いにより改めて中国語を学ぶ楽しさを感じられるようになったという温さん。今回は“日本語育ちの台湾人”であるご自身がどのように中国語を探求していったかについてお話しいただきます。

日 時：2017年1月14日(土) 13:00～15:00

※開場時間12:30

場 所：日中学院 302・303教室

参加費：500円(当日お支払いください)

※参加希望の方は事前にお電話または事務局窓口でお申し込みください。



基礎課程 夜間週3クラスを終えて

別科 小林万由

1年半の基礎課程が終了するため、同じクラスの玉井さんと「個人的修学旅行」と銘打ち、2泊3日で中国旅行へ行った。玉井さんはリニューアルオープンした杭州の中国シルク博物館で見たいものがあるとのこと。私は中国を見てみたい。という単純な好奇心が動機である。今回はその旅行の様子と感想をご報告することになった。

1日目は上海市内の散策と虹橋のホテルまで移動、2日目は杭州のシルク博物館へという日程だった。初日は地下鉄の券売機の操作や使えるお金がわからず混乱したが、日本と似ているけれど少し違う色々なものにワクワクした一日だった。

翌日はスリル満点の1日だった。虹橋から杭州東駅まで高鉄で移動。駅の案内所で博物館までの行き方を聞いたところ、3人がかりで説明してくださったが、私達二人分の想像力をあわせて理解した内容は「この駅からは行きにくい。バスも乗り継いでいかないと無理」とのこと（おそらく）。これは困った。とセカンドオピニオンを求めて違う場所でも聞いたものの言葉が十分に理解できず、聞こえた駅まで行き、タクシーで移動することにした。

タクシーでは、我々の説明と質問に対する回答が不十分だったため、違う場所に到着。ならば歩いてみるか。と地図を広げ、道行く人に「私はいまどこですか？」の質問を繰り返しながら進んだ。道で日向ぼっこをされていたお爺様にも遠慮なく尋ね、「歩くと遠いよ」と驚かれたが、そこだけ言葉がわかったことに感動したりした。途中入った食堂でトイレの場所を聞くと、店員さんは路地裏にある共同トイレまで案内してくれた。あとは一人と言われたが、わかったようなわからないような姿で進む私に、後ろから最後まで方向指示をしてくださった。「右！左！」の単語を知っていてよかったなと思った。「謝辞」以外の大きな感謝を伝えたくて、「テキストのあそこの文章！」と思い出したが咄嗟にでてこず、「サンキュー。ありがとう」と二か国語でのお礼も追加してみた。伝わっているといいなと思う。

その後奇跡的に目的地のバスを発見し、予定より大幅に遅れたが無事到着できた。ほっとしたのもつかの間、帰路もちろん苦戦し、大きな駅構内を全力疾走したが、手荷物検査の長蛇の列を予

想していなかったため、残念ながら予約していた高鉄に乗り遅れた。切符を買い直すために並んだ窓口でも、職員の方を困らせたと思うがなんとか切符を入手でき、4時間杭州東駅で待つことになった。夜10時近くとも駅構内は人であふれ、その活気に驚くとともに人口の多さを実感した。そして、有名な西湖の湖畔を長時間うろついていたのに、必死すぎて湖を一度も見なかったね。と玉井さんと笑いあった。

事前のリサーチ不足や1年半の結果が思うようにだせなかった反省はあるものの、帰ってきてみれば楽しい旅行だった。機会を作ってくれた玉井さんにとっても感謝している。今回の旅行で「言葉が正確にわかること、伝えられること」の重要性を改めて感じ、まだまだ勉強を続けていかないと。と強く感じた。

思えば、急に中国語を話してみたいと思いたち、日中学院の門をくぐったのが1年半前。仕事後は帰宅してからも「疲れた～」と床で寝転がっていることも多いのに夜週3回も通えるのだろうか。と不安は大きかった。しかし、6人の先生方の楽しい授業のおかげで、苦もなく1年半続けられた。ありがたいと思う。学生のときは授業が当たり前前の日常で、知らないことを一つずつ知っていくことがこんなに楽しいことだと気が付いていなかった。職場も年齢も違う同じクラスになった方とも仲良くなれて、良い1年半だった。

学院は今年「倉石中国語講習会」創立から65周年を迎えましたが、夜間1年半のクラスとして数十年別科の中心にあった週3回基礎班（A～F）は、2016年9月をもって終了しました。以前は月水金と火木土の2コースにわかれ多くの受講生を送りだしてきました。

その後火木土クラスは、週2クラスに変わり、さらに週1クラスの増設など夜間基礎クラスも大きく変化してきました。残った月水金クラスもまた徐々に受講生が減少し、2015年4月入学のA班の申し込みはわずか5名でした。それから1年半後、3名の同学が頑張っ残りしました。この最後の修了生となった小林同学は、上海旅行帰国日に1日休んだだけでそれまで皆勤で夜間に通っていました。10月末の夜間1年半基礎課程の終了にあたり、最後の週3修了生として小林同学に寄稿をお願いしました。

サバイバル昼ご飯

別科担当 胡興智

クラス分けテストが終わった安堵感も束の間、昼ご飯サバイバルが始まりました。

もちろん一食ぐらい食べなくても生死にはかかわりません。けれど、これから一週間のこともありますので、留学生係の先生の説明を一言も漏らさないよう聴いている表情は、試験よりも真剣そのもの。その傍らでは、お腹の指令に逆らえず、思わず食堂の配膳口に書かれているメニューを物色し始めた人も見られました。

その食堂のシステムは、食事専用カードを持っている人は直接注文できるのですが、私たちのように短期滞在でカードを持っていない人は、まず各窓口でメニューから好きなものを選び、その金額の食券を少し離れた食券売り場で買う必要があります。外国語大学とは言え、メニューまではグローバル化されておらず、日本語が表記されることもないため、中国語だけのメニューから瞬時に自分の好きなものを選ぶのは至難の業。既に試験に相当神経を使い果たしてしまっているので余力もありません。美味しそうな肉包子を横目に見ながら、早く注文しろと微笑む配膳係りのおじさんとおばさんの熱い眼差しに急かされ、迷うやら混乱するやら、窓口で立ち往生。

幸い少し早めに試験が終わり、中国人大学生の授業の終わる時間より早かったため、食堂はまだ混んではいませんでしたが、配膳口や食券売り場の前は十分賑わっており、食券を売る人は、聞きなれない中国語と日本語の混ざった注文の対応に追われていました。

肉包子が4元、ラーメンや炒飯が10元ぐらいですが、皆、空港で両替しただけなので、食券売りのおばさんに出すのは100元札ばかり。お釣りに困って、売り場の機能停止になりそうなので、細かいお金を何人かの方に貸すことにしました。

食券は買えたものの、一難去ってまた一難。

メニューは何とか読めたのですが、配膳口の係りに好きな食べ物を口頭で伝えるのにまた一苦勞、二苦勞。発音が大切だとわかってはいるけれど、そもそも初めて見たものばかり。生まれて初めて外国語で注文するのですから、ドキドキして発音どころではありません。それでも「千辛万苦」を排して何とかゲットした戦利品を誇らしげに食卓に持ち帰ることができた人もおり、大きな学習の果実を収穫できた皆さんには、私も心の中で大きな拍手を送りました。ただ、その一方、携帯で撮影したメニューを指さし、窓口係の人たちと、難しそうな料理名を発音することなく、うんと楽をしてコミュニケーションを取っている人の姿も……。語学教師としては力不足を痛感するとともに、科学技術の進歩により、言葉はどこまで追いやられてしまうだろうかと思わずため息をついてしまいました。

既に料理を手にした人もいる一方、食券を渡して注文を終えても、品物がなかなか出て来ない人もいます。授業が終わって、中国人学生が次から次へと窓口が集まってくると、窓口が一層にぎやかになってきました。窓口では、出来た料理名を大声で呼ばわって、注文した人に渡すことになっているのですが、自分の注文したものを大声で呼ばれているのに気づかないという問題が発生してしまいました。そもそも何を注文したのか、把握し切れていない方もいましたので、麺類の配膳口では、他のどこよりも美味しそうな列ができてしまいました。

私も麺類は大好きで、今後の昼食メニューのリサーチも兼ねて、誰か困っている人がいないか見に行くと、突然、食券を奪われそうになってしまいました。奪われまいとして、振り返ると、なんと一人の中国人の女子学生が私のことを注文に困っている観光客と勝手に判断して、私の代わりに食券を窓口の中に

渡そうとしてくれたのでした。何人かの方が、「この人は、私たちの中国語の先生ですよ」と言ってくれたので、食券を奪われず済みましたが、日本に長くいるせいか、どこか日本的になってきたのかな……と、嬉しような、寂しような気持ちになりました。皆で大笑いして、誤解も解けましたが、しかし、あの暖かい湯気に包まれた情景を思い出す度、今も心がポカポカしています。

長いテーブルでそれぞれ注文したものを食べながら、これからの5日間の昼食は何とかなるだろうと、ちょっと安心したのを覚えています。幸せそうに、好きな料理をほおぼる

皆さんの表情は、どんなに豪華な宴会料理よりも、豊かに暖かく心に残りました。



図書室 だより

日本語作家として —温又柔さんとリービ英雄さん—

来たる2017年1月14日、本学院創立65周年記念講演で現在日本語作家としてご活躍中の温又柔さんをお招きし、講演していただくことになりました。タイトルは「私が中国語と仲良くするまで」です。



温さんは本学院を卒業され、エッセイ『台湾生まれ 日本語育ち』（2016年白水社刊）でも述べられているように台湾で生まれ、三歳の時に来日。2009年『好去好来歌』で、第33回すばる文学賞佳作を受賞。その後広い分野で活躍し、第64回日本エッセイストクラブ賞を受賞されました。



今月の「図書室だより」ではさらに温又柔さんの恩師であるリービ英雄さんをご紹介したいと思います。

リービ英雄さんは1950年米国生まれ。外交官の父を持ち、幼少時には台湾、香港に住みます。

1967年に日本に移り住み、日米往還を繰り返しながら米国に日本文学を紹介し、やがて西洋出身者として初めての現代日本文学作家となり、温又柔さんの師として、時には同志としてお二人は強い絆を育まれています。

図書室では紀行文学の傑作とも評されるリービ英雄さんの著書も配架しております。温又柔さんの著書と併せてお楽しみください

●そのほかの温又柔さんの著書

『来福の家』集英社

《来福之家》郭凡嘉 譯 聯合文學出版社

●リービ英雄さんの著書

『我的中国（われてきちゅうごく）』岩波書店

『延安 革命聖地への旅』岩波書店

— 新 着 図 書 (書名のみ) —

3パターンで決める日常中国語会話ネイティブ表現 (CD付)/天声人語集萃2/麻雀の誕生/「南京事件」を調査せよ/わたしは潘金蓮じゃない/台湾を知るための60章/平成28年度日本留学試験第1回試験問題/ほか

— 寄 贈 —

下記の方々より寄贈がありました。御礼申し上げます。

●石黒敦子様より『な～るほど・ザ・台湾』2016.10

●淳于永南様 (共著者) より

『ネイティブならこう言う！中国語会話フレーズ500』

●中村友彦様より『安源炭鉱実録』『黄禍』

12月の日中学院

日	一	二	三	四	五	六
				1	2 ●本科1次試験 受付締切 ●別科公開講座(入 門/基礎)18:45~	3 ●本科研究科学内 推薦面接
4 ●本科1次入試 ●日本語能力試験	5	6 ●本科1次試験 合格発表	7 ●本科2次募集 受付開始	8	9	10 ●別科公開講座 入門/基礎 13:00~
11	12	13	14 ●本科定期試験 (~20日)	15	16	17
18	19	20 ●本科・日本語科 2学期最終日	21 ●本科・日本語科 冬休み開始 (~1/9)	22 ●別科263期授業 最終日	23 ●祝日	24 ●仕事納め
25 ●閉門(~1/5)	26	27	28	29	30	31
<p>●1月の日中学院 ・6日…仕事始め 開門 別科公開講座 入門/基礎18:45~ ・7日…別科公開講座 入門/基礎13:00~ ・10日…本科・日本語科 授業再開</p> <p>・10日…別科264期授業開始 ・14日…温又柔先生講演会 (13:00~) ・16日…中国語検定受付開始 ・18日…日本語科2年国会見学 ・20日…本科2次受付締切</p> <p>・22日…本科2次入試 ・24日…本科2次合格発表 ・25日…本科3次受付開始 ・27日…日本語科春節パーティ ・28日…本科生のため公開講座/春節</p>						

特別講座のご案内

2017年1月より新しい特別講座が開講になります！

短期集中耳トレ中国語(楊魁魁)

聞く(耳から入る情報)だけで中検3級程度の内容の会話、短文を理解していくことを目指します。「聞く」ためのポイントをつかみ、苦手意識を克服しましょう！

日時：2017年1月21日(土) 全8回
16:00 ~ 18:00

授業料：29,600円

中国結び講座(みなみりょうこ)

紐を結んで形を作る中国の伝統工芸です。様々な結び目を組み合わせて縁起の良い飾りを作ります。学んだ後は、アクセサリーや生活を彩る実用品等幅広く応用して楽しむことができます。

ぜひこの機会に学んでみてください。

日時：2017年1月21日(土) 全8回
16:00 ~ 17:30

授業料：24,000円

別途教材費

1回 1,000円程度



中国語検定対策講座 2級 (戴暁句)

2017年3月に実施される中国語検定試験に照準を合わせ、2級対策講座を開講します。過去の問題の解説や、模擬試験を通して聞き取りや読解の実践的な訓練を行います。

日時：2017年1月14日(土) 全10回
10:00 ~ 12:00

授業料：37,000円

☆日本語科在日生募集中です。

日中学院では、すでに日本にいらっしゃる方で日本語の学習を希望される方を募集しています。2017年4月に日本語科へご入学をお考えの方は、一度お電話にてお問い合わせ下さい。

☆中国語本科・本科研究科生募集中です。

全日制で、中国語を学びませんか。1年生、2年編入、本科研究科の学生を募集しています。

次回入試：1月22日(日)

☆今後の公開講座の予定

以下の日程で、別科公開講座を開講します。

12/ 2(金)18:45 ~ 20:45

12/10(土)13:00 ~ 15:00

1/ 6(金)18:45 ~ 20:45

1/ 7(土)13:00 ~ 15:00

入門コース、
基礎コースを
開講します。